



Point

健苗育成に向けて、 適切な種子予措を行いましょう！

秋田地区営農センター 係長 嵐城 大輔



資材・作業所の清掃を忘れずに

昨年に発生した「ばか苗病」の原因菌が付着していたり、粒殻などが伝染源になったりする可能性があるため、種子予措の作業場所は十分に清掃してください。また、容器や循環式催芽機なども、使用前後にしっかりと洗浄しましょう。

種子・苗箱消毒

無消毒種子を使用する場合は塩水選、種子消毒を行います。昨年に「ばか苗病」や「もみ枯細菌病」などが発生した場合は、必ず苗箱の消毒を行いましょう。

種子消毒	ヘルシード乳剤	ばか苗病・ごま葉枯病・いもち病	200倍 24時間種子浸種
	スターナ水和剤	苗立枯病・もみ枯細菌	200倍 24時間種子浸種
	テクリードCフロアブル	ばか苗病・ごま葉枯病・いもち病・ 苗立枯病・もみ枯細菌	200倍 24時間種子浸種
苗箱消毒	イチバン	多くの菌に効果(特にリゾープス属菌)	500~1,000倍 瞬時浸漬または散布

浸種作業

品種や消毒方法が異なる種子は、必ず別々の容器で浸種や催芽をします。

水の量 種子1kgにつき水3.5ℓが適量です。



適水温

浸種を始めるときは、お湯を使って水温が15°Cになるよう調整します。
浸種中は適水温の10~15°Cを維持し、10°Cより低くならないようにしてください。水温が低いと消毒剤の効果が劣るうえ、種子の休眠が深まって発芽のばらつきが大きくなるため、適水温を確保するように気を付けましょう。

※浸種する容器に必ずふたをして保温し、容器に病原菌が入らないようにしましょう。

水交換

消毒効果を高めるため、交換回数は期間中2~3回程度にします。浸種開始から48時間は、水を交換しないでください。

催芽作業

内部まで温度を均一にするため、催芽前に36~40°C程度のお湯に湯通してください。

催芽適温 30~32°Cで行いましょう。高すぎたり低すぎたりすると、「ばか苗」や「細菌病」の発生を助長します。催芽中は水分を切らさないように気を付けてください。

催芽時間 約19~25時間が目安です。品種によって催芽時間が異なるため、他の品種と同時に処理しないようにします。同じ品種でも、年や作業時期によって発芽速度が異なるため、芽の程度を自分の目でしっかり確認しましょう。ムラがないように、種子袋の中まで必ず確認してください。

★今月のあなたの運勢 2022年3月★ 双子座 (5.21~6.21) 切磋琢磨(せっさたくま)しながら前進するときです。対立したら何が最善かを考えて。上昇志向が問題解決の鍵